

「『2025年大阪・関西万博』について」

大阪府・大阪市万博推進局 局長 彌園 友則

「2025年大阪・関西万博」について

2024年4月25日
大阪府・大阪市万博推進局

ただいまご紹介いただきました大阪府・大阪市万博推進局の彌園と申します。これより2025年大阪・関西万博についてお話をさせていただきます。



～万博全体のイメージ動画放映～

大阪・関西万博の概要

テーマ いのち輝く未来社会のデザイン
Designing Future Society for Our Lives

サブテーマ (1)いのちを救う Saving Lives
(2)いのちに力を与える Empowering Lives
(3)いのちをつなぐ Connecting Lives

コンセプト 未来社会の実験場 People's Living Lab

開催期間 2025年4月13日(日)～10月13日(月) 184日間

想定来場者数 約2,820万人

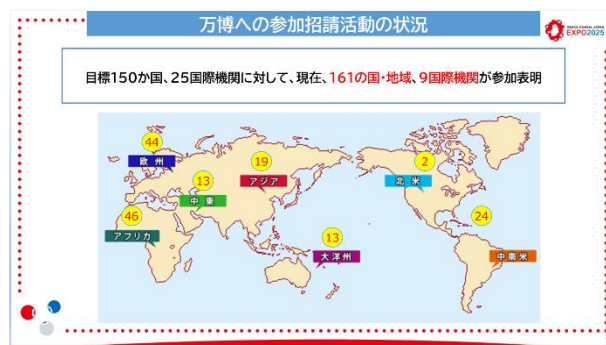
開催場所 大阪 夢洲(ゆめしま)

まず、万博の具体的な内容および準備状況から説明させていただきます。テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」ということで、世界各国が「いのち」ということへ問いを立て、未来社会を創造していく場になると思います。コンセプトは「未来社会

の実験場」であり、会場の至る所で世界各国の最新技術が実装、実証される準備がいま進められています。開催期間は、2025年4月13日から10月13日まで6ヶ月、184日間となっています。来場者数は2820万人を想定しており、開催場所は大阪湾の人口島である夢洲であり、万博会場としては初めての海上万博となります。



万博は国家事業であり、世界最大級の国家イベントです。特に今回の万博は160カ国以上が参加し開催されますので、大阪万博の76カ国、愛知博の121カ国を上回り、過去を含めても最大規模で開催される万博となります。



参加国の目標は150カ国25機関でしたが、これまで調整を続けてきました結果、現時点において161の国・地域と9の国際機関が参加を表明しています。参加表明国の分布について、地域毎に黄色の丸の中の数字で示しています。



次に会場の建設状況ですが、メディアでは海外パビリオンの建設が遅れていると報道されていますが、赤色の所がすでに着工済みの施設です。真ん中に大屋根リングがありますが、その外側の部分はほとんど着工している状況です。リングの内側の青色の所に海外参加国のパビリオンが出展することになっており、その部分が遅れているということかもしれませんが、予定通りだと話される国もあり、今後順次着工件数は増えていくと思います。



これは大屋根リングの建設状況です。昨年 6 月から組み立てが始まり、現在約 8 割の進捗です。1 周が約 2km、正確には 2025 年にちなんで 2025m だそうです。幅 30m で 2 階構造となっており、2 階部分は遊歩道として整備が進められています。内側の高さ 12m は清水の舞台とほぼ同じ高さであり、清水の舞台と同じ伝統工法を用いて建てられています。外側の高い所が 20m になっています。現在は 9 月末にリング状につなげるという工程で工事が進められています。



～大屋根リングの下からと上からの状況の動画を放映～
皆様も機会があれば、このリングに登っていただけたらと思います。私は今月 3 回登りましたが、圧倒的な壮大さや、五感に訴えてくるものがあり、感慨深いものがあります。特に天気の良い日は、海の上であり、空が近く、六甲の山々も近いということで、夕方になると一層素晴らしいロケーションになります。是非皆様方も機会があれば楽しんでいただきたいと思います。



次に、静けさの森をご紹介します。会場のほぼ中心のところに、広さ約 2.3 ヘクタールのこういった森を作ろうということです。賑やかな会場の中には、ひときわ静かで落ち着ける場所も必要だとして造られるもので、1500 本の植樹が計画されて現在 1/3 の 500 本が植樹済みです。これは単に樹木を購入して植樹するのではなく、間伐材を活用してこの森を作っています。そこにもストーリーがあり、全体 1500 本のうち半分の 700 本は、

大阪万博が開催された吹田の万博公園から木を移植します。開幕直前の2025年2月末に植樹完了の予定です。植樹というのは1年の中に相応しい時期というのがありまして、大体そういわれているのが12月から3月で、この時期に植樹しないと木が育たないといわれているので、その時期もイメージして、2025年2月末に植樹を完了させる予定にしています。



つづいて海外パビリオンについてお話しします。先ほども触れたように、メディアから建設が進んでいないと報道されていますが、起工式等の実施済み国が20カ国あります。また、シンガポールをはじめ赤字で記載の15カ国が既に着工しています。最新情報では、自国で建設するタイプAと呼ばれているパビリオンが53カ国出展予定です。その中で建設業者が決定している国が39カ国です。39カ国のうち着工済みの国が資料では15カ国ですが、現在は17カ国になっています。建設業者未定の10数カ国に対しては、外務省と経済産業省が参加国に寄り添いながら出展調整をしている状況であり、今後建設業者が決定する国も追って増えてくると思います。

海外パビリオンのデザインを、画像でお知らせします。下の左側がフランスのパビリオンで4月23日に起工式が行われ、私も参加させていただきました。テーマは「愛の賛歌」で、自己愛、他者への愛、地球への愛についての強いメッセージと共に新しい未来のビジョンを示したい、さらにはフランスと日本のラブストーリーも表現していきたいとの紹介がありました。右側はアメリカ合衆国のパビリオンのデザインイメージです。テーマは「共に創出できることを想像しよう」であり、強い意気込みを感じます。というのも、アメリカは万博のパビリオン出展へはドライな部分があると言われていましたが、今回は何十年振りに連邦予算を注ぎ込み出展されるということです。「わびさび」から着想を得た木造の外観を持つ3つの三角形の建物2棟から構成されるとともに、それと平行にライトアップされたキューブが浮

かぶように配置されています。キューブの下ステージでは、アメリカの郷土料理や音楽・パフォーマンスなどが展開される予定とのことで、私も非常に楽しみにしています。また、NASA・アメリカ航空宇宙局の協力による展示も予定されており、第2の月の石のようなものが目玉として展示されるのではないかと予想しています。



次のスライドも、海外パビリオンのデザイン画像を掲載しています。左上がドイツパビリオンで、テーマは「循環経済(サーキュラーエコノミー)」です。パビリオンの名称は「わ! ドイツ」で、意味合いとして、循環の「環(わ)」、調和の「和(わ)」、感嘆の「わ!」の3つが込められていると言われています。パビリオン自体が循環型持続可能な建築による出展作品となっており、ドイツならではの未来社会が示される予定です。

続いて、その右がカナダパビリオンの外観です。カナダパビリオンでは、テーマである「再生」に沿ってカナダの温かさや、開放性、前向きな姿勢、こういったところが、川の流れる堰き止められる自然現象「水路氷結」ということをイメージして表現される予定です。

最後は、スイスパビリオンです。スイスパビリオンは「生命」「地球」そして「人間拡張」という3つのテーマを通じてライフサイエンスや、健康、栄養、こういったスイスの最先端技術を展開する予定とのことです。特徴的なのは、建物が球体になっており、100%リサイクル可能な素材の膜を使用しているということで、万博後もすでに用途が決まっており、家具としてアップリサイクルされる予定です。



次のスライドにも海外パビリオンの画像、デザインイメージをご紹介させていただいていますが、個々の部分につきましては時間の都合上割愛させていただきます。



パビリオンの中にはテーマ事業パビリオンがあります。8名のプロデューサー方によるシグネチャーパビリオンが建設中であり、昨日万博会場を視察しましたが、8館全て順調に工事は進んでいます。



そのほか民間企業が出展するパビリオンもございます。全部で13ありますが、そのうち12館が着工済です。左側がバンダイナムコホールディングスさんのガンダム館です。後ほどお話する大阪パビリオンもこちらと連携協定を結んでおります。ガンダム館のテーマは「もう1つの宇宙世紀」です。未来社会の課題解決に向けてガンダムと人類が共存する未来を見据えたパビリオンということで準備が進められています。とりわけガンダ

ム好きの年代の方々にはたまらないパビリオンになるのかなと思います。

日本電信電話株式会社さんもパビリオンの出展準備を進めておられます。最先端の通信技術を活用して物理的な壁や心理的な壁を越えるということで、テレビで海外と通信衛星で結んだ放送をご覧になることもあると思いますが、海外からの返信には一定のタイムラグがあります。今回NTTさんが考えているのは、そのタイムラグをなくすIOWN(アイオン)と呼ばれる技術をパビリオンで紹介したいということで、未来のコミュニケーションの形が展開される予定と伺っています。

パナソニックさんも、これからの子どもたちが世界を生きる「自分を信じるチカラと一歩を踏み出す勇気」ということで、体験型のパビリオンを展示する予定です。



他に民間パビリオンがありますが、別の機会にご確認いただければと思います。



それでは、地元大阪が出展する大阪ヘルスケアパビリオンをご紹介させていただきます。自治体パビリオンは過去の博覧会でも出展されてきましたが、今回我々が初めての取り組みとして進めているのが、産官学民が一体となったパビリオンということです。多くの民間企業さんから協賛をいただいてこの大阪ヘルスケアパビリオンが成り立っており、引き続き皆様方と一緒に準備を進めてまいります。左下がパビリオンの

外観イメージです。その右が、ロゴマークとキャッチコピーです。「カラダはひとつ。ミライはむげん。」ということで考えております。建物規模ですが、敷地面積・延床面積は1万500㎡と9800㎡、これはパビリオンの中では政府館に次ぐ2番目の大きさです。既に昨年4月から着工を進めています。



それでは、大阪ヘルスケアパビリオンのイメージ動画を見ていただいて、少し理解を進めていただきたいと思います。

〔動画〕2025年、鳥の巣をイメージした大阪ヘルスケアパビリオンが誕生します。エントランスを入ると未来の都市生活をテーマにした様々な展示が始まります。入場者は体をスキャンしてパーソナルヘルスレコードを作成。データを元に提案される未来のフード、ヘルスケアなど未来の自分を知ることができる様々な体験が用意されています。大阪ヘルスケアパビリオン、Nest for Reborn。私たちの未来は生まれ変わります。



工事も順調に進んでおり、これは今の進捗を示しています。今年10月建築完了ということで、それを境に本格的に展示製作の工事に移っていくというフェーズに差しかかっています。



ここで出展内容をご紹介させていただきます。そのコンセプトについて、動画をご覧ください。

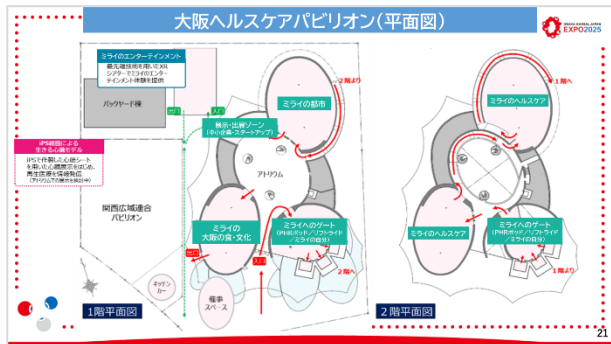
〔動画〕未来はどこからやってくるのでしょうか。実は体にヒントがあります。体は変化の天才です。この瞬間も1秒1秒止まらずにぐるぐると生まれ変わっています。5分後のあなたも25年後のあなたも今のあなたの行動でああなったりこうなったり。例えば今日、未来のヘルスケアを体験できたとしたら、あなたはどんな一歩を踏み出すだろう。もしかするとこの星が生まれ変わる近道も1つ1つの体にあつたりして。カラダはひとつ。ミライはむげん。大阪ヘルスケアパビリオン。

展示ストーリーが25年後ということで、2050年の日常生活、都市生活をこのパビリオンで体験いただける内容になっています。その中身を順次説明させていただきます。



大阪ヘルスケアパビリオンにお越しいただくには、まず博覧会協会の公式サイトや日本旅行等の窓口でチケットを購入いただくことがファーストステップになります。次のステップが、今年10月ぐらいから万博会場の入場予約が始まります。それに合わせてパビリオンの入館予約も始まりますので、それらの予約をしていただくことになります。また、大阪ヘルスケアパビリオンには REBORN ルート、予約が必要な体験ルートもあります。そちらの方も公式アプリやウェブサイトで事前に予約いた

だくことになります。その上で当日我々のヘルスケアパビリオンにご来館いただくという流れになります。



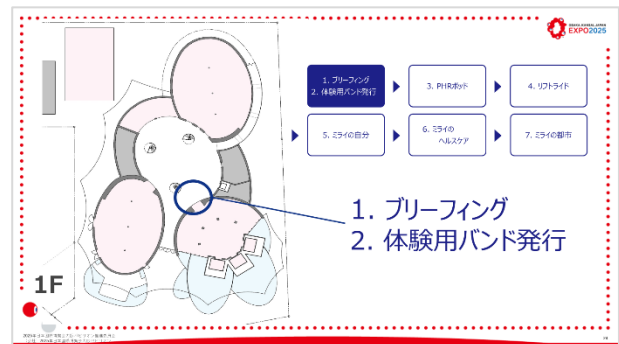
これは、大阪ヘルスケアパビリオンの平面図です。左が1階、右が2階です。入館ルートは、赤く矢印を引いているところで、1階から未来のゲートに繋がって2階に上がるわけです。その上で未来のヘルスケアルーム1、ルーム2の展示をご覧いただいた上で、また1階に降りてきて未来の都市をご体験いただくというのがザックとした流れです。そういうルートで皆様方に楽しんでいただこうと思っています。



これが「REBORN 体験ルート」で、予約が必要となります。予約が必要なスペースもあれば、必要でないスペースもあります。大阪ヘルスケアパビリオンは3棟から構成されており、本館棟とエンタメ棟、そして事務方が日々執務するバックヤード棟の3棟です。REBORN 体験ルートは本館棟で体験いただきます。本館棟につきまして説明を進めていきたいと思っています。



これが REBORN 体験ルートの流れでございます。ここでは、まさに 25 年後の未来の自分、これがアバターとなって現れまして、そして未来のヘルスケアとか都市生活を通じて生まれ変わる体験を提供していきたいと考えています。



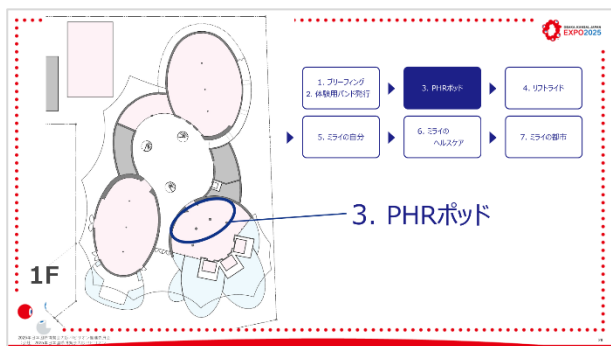
それでは中身の方です。



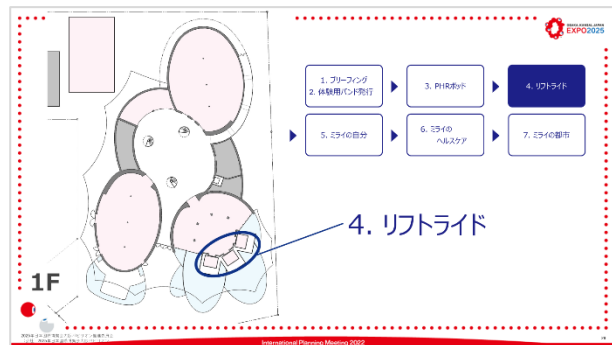
まず入り口に入ってくださいますと体験ルートの具体的な内容やイメージ画像を紹介させていただきます。我々はプリーフィングと呼んでいます。



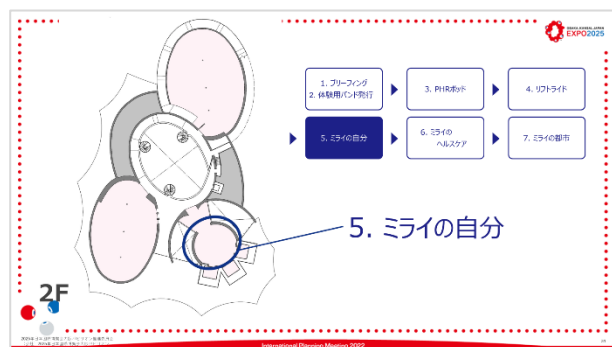
その中でいろんなポイントを説明させていただいた上で、体験用バンドを発行させていただきます。このバンドに事前に登録された皆様方の登録情報がメモリーされているという仕組みになっています。



そして PHR ポッドで、その日の健康状態、健康スコアを測定します。この PHR ポッドに入ってくださいと、約数分でその日の健康状態、心血管でありますとか、骨格、肌、髪そして脳認知そして視覚、歯などの個人の健康に関するデータをメモリーします。



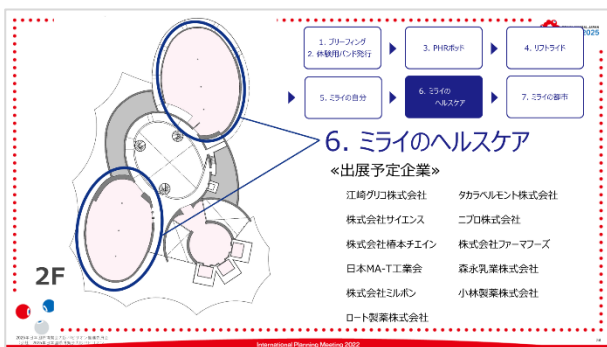
そのメモリーが終わりましたら奥に進んでいただき、リフトライドというエレベーターに乗って2階に上がっていただきます。このリフトライドに 30 秒間かけて 2 階に上がっていく間に、その上昇動作を活用して、大阪の未来都市を感じていただけるようなスクリーンへ画像を投影しようと考えております。



そしてリフトライドを降りていただきますと、そこで「ミライの自分」、まさに先ほどからあります 25 年後の自分、アバターに出会うことになります。



そのアバターのイメージがこちらです。右の方に少女の画像があります。この少女の 25 年後の姿がアバターとなって現れるということで、25 年後の姿を表現したいと思っています。

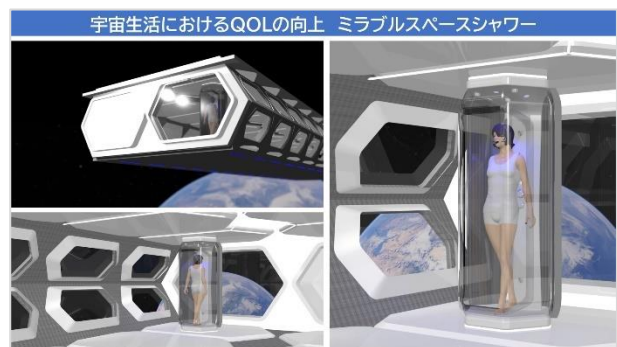


ミライの自分に出会った後は、未来の都市生活を旅していただきます。まず初めにミライのヘルスケアということでルーム 1、ルーム 2 の 2 箇所があります。ここは協賛企業の皆さまの展示

出展により、まさに先ほどの PHR ポッドでメモリーされた皆様方 1 人 1 人に最適化された、ヘルスケアに関する様々な体験をしていただこうということです。



展示の具体例として、株式会社サイエンスさん、シャワーヘッドで有名な会社でございますが、70 年万博の時にも人間洗濯機が展示されましたが、今回はさらに進化を遂げた人間洗濯機を展示されるということです。単に体を洗うということではなく、リフレッシュ機能も備えた、「ココロもカラダも洗われる」人間洗濯機が用意されているということです。これが何に活用されるかということですが、介護現場において実用化されます。介護が必要な方々において、少しでも気分転換していただくということで、開発が進められています。



同じくサイエンスさんですが、ミラブルスペースシャワーというものが現在展示に向けて準備を進められています。なぜこれが宇宙シャワー、スペースシャワーかと申しますと、無重力空間では水が噴出されても玉状になってしまい、シャワーみたいに下に落ちてこないのです。よって今宇宙に行かれてる宇宙飛行士の方は身体を洗うことはできず、身体を拭いていらっしゃるのが実状です。そこへ、このサイエンスさんが開発された無重力のスペースシャワーということでございます。少し動画と画像がありますのでご覧いただければと思います。



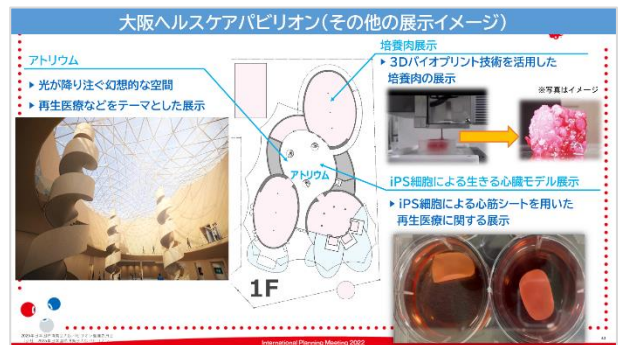
昨年、宮古島でバルーンに実験機をつけ、成層圏まで飛ばしました。少し分かりにくいですが、玉状にならず、成層圏においてもシャワーが機能するところが実証されました。そういった実際の展示もこの大阪ヘルスケアパビリオンで進めていきます。少量の水で宇宙でも体を綺麗にできる世界初の宇宙シャワーを体験いただけますので、楽しみにいただければと思います。



そして1階に戻っていただくことになります。そこに待ち受けているのは、「ミライの都市」ということで25年後2050年の日常生活を体験いただくということになります。



そこでは生活に医療が溶け込んでいるということで、例えばメディカルミラーということが言われております。それは鏡に自分が映し出されるとまさに先ほどと同じように、その日の健康状態が示されて、健康状態に沿ったその日の行動が一気に音声として流れてくるということも考えられています。そしてこのミライの都市を経験すると、ミライの自分に改めて出会い、そこでは先ほどのヘルスケア体験などを通じて生まれ変わった自分と出会うという風なストーリーを考えております。それでフィナーレを迎えていただくということになります。



そういったリボーンルートもありますが、それ以外の見所としては画面の右下になりますが、iPS細胞による心筋シートを用いた再生医療に関する展示があります。とりわけ子供さんへ科学に興味を持っていただくために、分かりやすく展示していきたいと思っています。京大の山中先生も8歳の頃に大阪万博に行かれたようです。やはりその時に非常に印象深い展示を見ることで、科学者の道を選ぶことに大きな影響を受けたと話されておられます。今回の万博におきましても、子供たちが将来自分は何の分野にどうチャレンジしていくのかという「道しるべ」になることも大きな万博の意義ではないかと思っています。

上の写真は、培養肉の展示です。3D バイオプリント技術を活用して培養肉を作り、皆様方へ試食まではできないのですが、焼いて香りを感じていただきたいと現在準備を進めております。

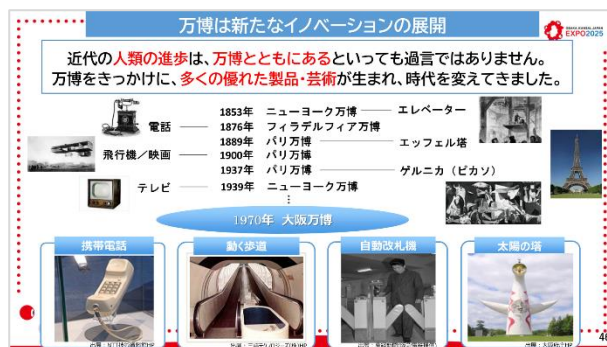


これも1階になりますが、展示・出展ゾーンを設けております。ここでは、大阪は中小企業の町と言われることもありますので、リボーンチャレンジということを進めています。400 社弱の中小企業・スタートアップさんに自社の匠の技術을展示していただきます。技術力は確かに高いのですが、これを万博会場で皆様方に展示して見ていただくところまでは、なにぶん中小企業では力が不足しているところもあります。そういったところをフォローアップする支援機関として、りそなグループさんを初めとした金融機関、または大阪商工会議所さん、大阪産業局さんといったところが展示まで伴走するという取り組みでございます。こういった方々は、万博期間中26週ありますので、1週間あたり10社程度の企業さんに週替わりで出展・展示していただくことを考えております。

そして、やはり大阪は食の街でありますので、未来の大阪の食文化ということで、例えば粉モンでありますとか、それをそのまま展示するのではなく、大阪もんを使う中で少し未来思考、そういったお化粧品、付加価値をもった飲食の販売や物品の販売を企画しています。



その他にも、アクアポニックスということで水耕栽培と陸上養殖を組み合わせたサステナブルな展示というものも考えています。球体の直径7m ございまして、下の方には大きな水槽もあります。そこには淡水魚と海水魚が同居しているということも楽しんでいただければと思います。



こちらは、万博とはまさに新たなイノベーションの展開、未来社会を指向する部分に大きな意義があるということです。70年万博では1番左の携帯電話ワイヤレスフォンが展示され、いまイノベーションを重ねて日常生活に不可欠なスマートフォンになっています。今回の万博においてもこういった出展・展示がされるということです。



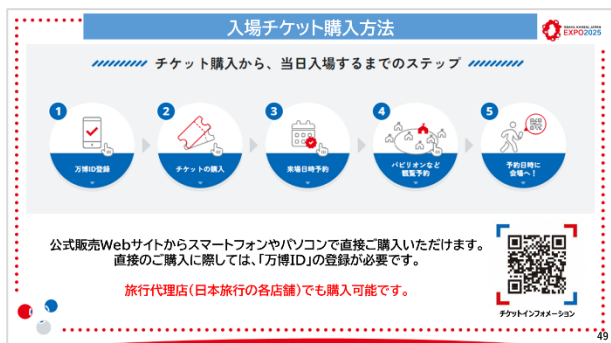
例えば空飛ぶクルマでありますとか、EVバスの自動運転、こういったショーケース事業も用意されています。



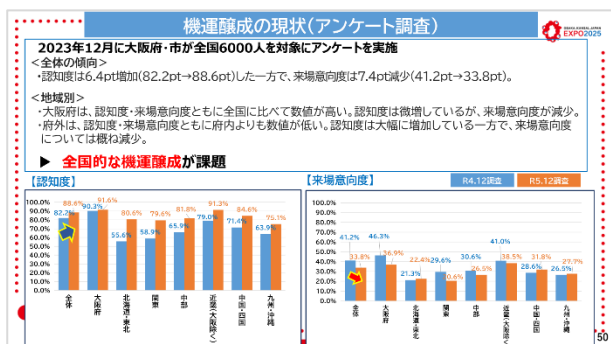
</

万博への来場チケットを、いま前売り販売しています。開幕

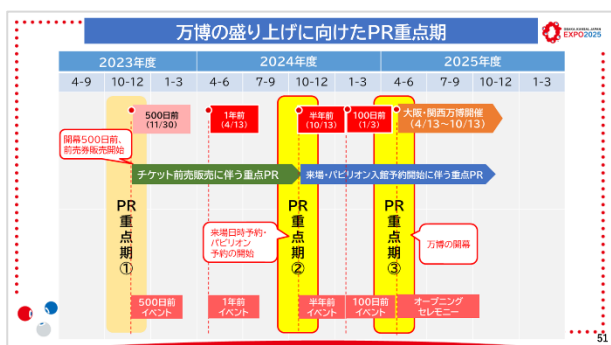
券は大人 1 人 4000 円で購入できる割引期間中ですので、是非お求めいただければと思います。



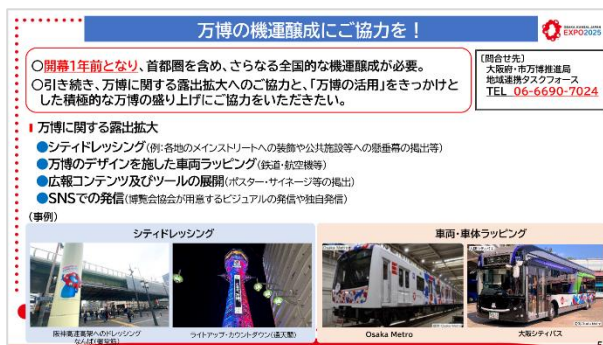
これが手続きの仕方です。チケットインフォメーション、QRコードで公式サイトを覗いていただきたいと思います。こちらの方で万博 ID を登録いただくということになります。



機運醸成に関してですが、右のグラフが来場意向度のアンケート調査結果です。昨年と比較すると大阪府内においても減少しています。皆さんへどうすれば万博に行ってみたくていただけたかという取り組みを、とりわけ今年度進めていきたいと思っています。



2つのPR重点期を設けます。前半は今年の9月から11月、後半は来年の3月から5月、ここをPR重点期と設定して、官民一体となり集中的な取り組みを進めていきたいと思っていますので、皆様方も是非ご協力をお願いいたします。



機運醸成の取り組み事例を記載させていただいております。万博開幕まであと、353 日となりました。いま申し上げましたように、まだまだこれから来場意向度を高めていく必要があります。そのためには、万博でどんな体験ができるかというところを皆様方にできる限り発信していき、皆様方に 1 人でも多く万博に行ってみたくていただけたように取り組んで参りたいと思います。是非会場で皆様方とお会いできることを楽しみにしております。どうぞご清聴ありがとうございました。(以上)

